介護部会Ｅ２ブロック会議　報告書

実施日　平成２６年　９月２６日（金）１４時～１６時

会議実施会場　介護老人保健施設　セアラ逗子

参加人数　　　７施設　１０名参加

議事項目　　　事故報告書、ヒヤリハット報告について

内容１．施設見学

　　２．ディスカッション

　　３．フリートーク

『A施設』

事故報告書、ヒヤリハットは１枚で行っている。→ＰＣ入力

対策については報告者・発見者で対応。今年の４月から事故防止委員会を設置して内容分析を行い始めている。

『B施設』

事故報告書・ヒヤリハットは別々でインシデント・アクシデントで分けている。リスク委員会が統計をとり周知している。事故報告についてはヒヤリハットも同時に出している。（必ずヒヤリハットを上げてアクシデントであれば事故を付ける）事故の定義は基本はＤｒ上申を行ったもの。

『C施設』

事故報告、ヒヤリハットは同一書式で手書き。

年間ごとにファイル管理している。ＰＣ内に月の事故・ヒヤリ数を統計で出し、毎月の安全対策委員会で報告している。

『D施設』

ユニット型がある為、それぞれ別の用紙を用いている（手書き）

事故の時の家族連絡は事故対策委員が連絡してリスクマネージャーが最終確認をしていく。原因不明な皮下出血や表皮剥離については別紙にて管理している。統計をとってグラフ化して周知をしている。

行政報告を事故扱いとしている。ヒヤリハット報告の中間のものを現在作成中。ヒヤリハットからの対策を活用して事故防止に努めている。

『E施設』

事故報告とヒヤッと報告は同一書式。内容の大きいものは別紙の事故報告書で２枚つづりで理事長へ提出している。対策は当日中に出して朝の申し送り時に報告して周知している。月１回、事故対策委員会を実行して事故の多い人などをピックアップして再発防止を行っている。

『F施設』

事故報告とヒヤリハットは別々で手書き。

ヒヤリハットの内容を簡素化して出来るだけ多くだして事故予防策にしている。それによって気づきが多くなっている。

『G施設』

事故報告とヒヤリハットは別々で手書き。

ヒヤリハットを多く出して事故防止に努めている。安全衛生委員会で毎月各部署で事故報告・ヒヤリハットを報告してグラフ化にして周知している。

フリートーク

１、誤薬等の事故についてどう対応しているか？

・施設によっては基本的に看護師で配薬している

・与薬時はご利用者本人確認と薬の袋に記載している名前の確認を声に出して行う。

２、夜間帯で毎晩脱衣行為・オムツ外しをする方の対応をどうするか？

・脱衣したい意思がある事も考えられる為、その際は無理に着衣せず様子をみる。失禁はその都度対応する。

・浅眠傾向なので日中の覚醒を促して休めるようにする。排泄パターンから検討し行動把握

・本人が安心出来る環境整備